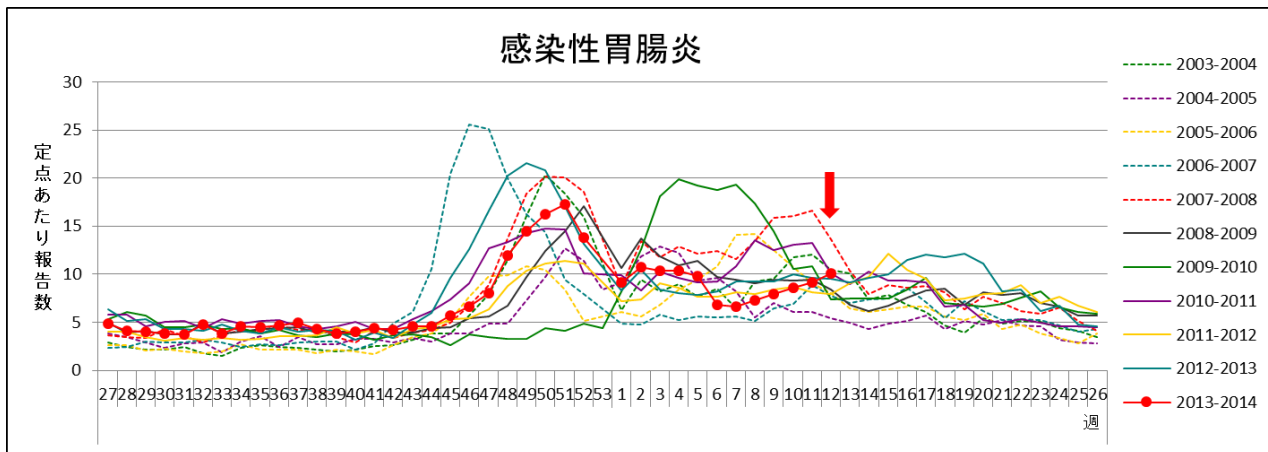


感染性胃腸炎情報 2014 年 第 12 週 (3 月 17 日 ~ 3 月 23 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 542 名（定点あたり 9.15 → 10.04 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。



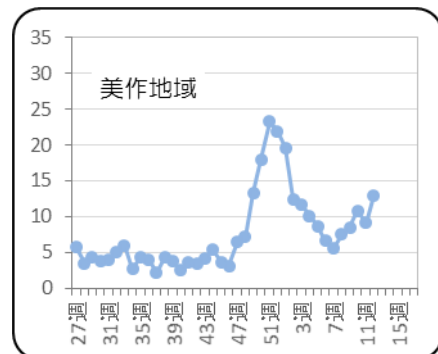
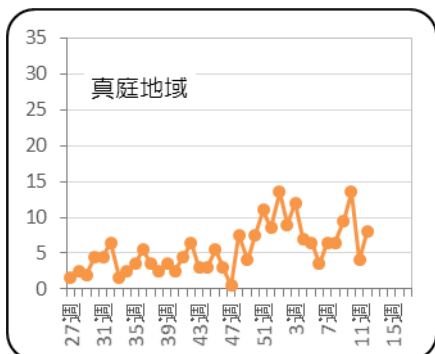
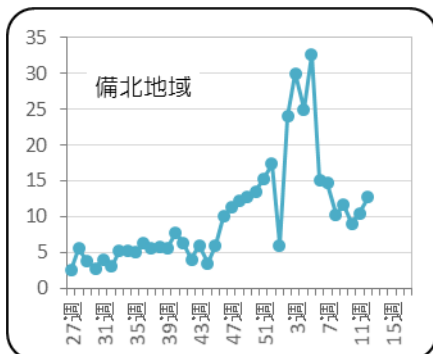
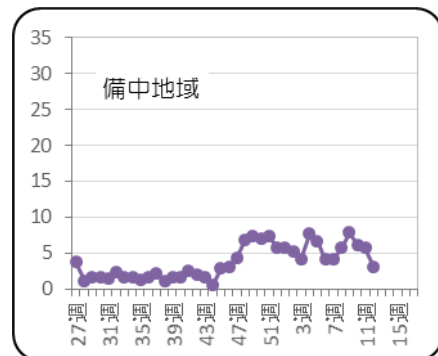
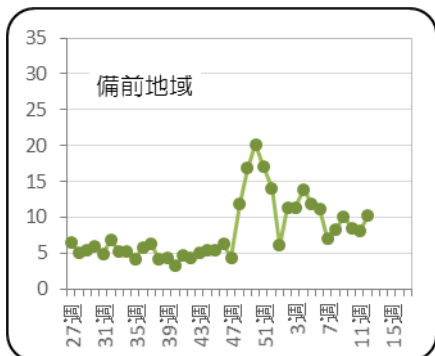
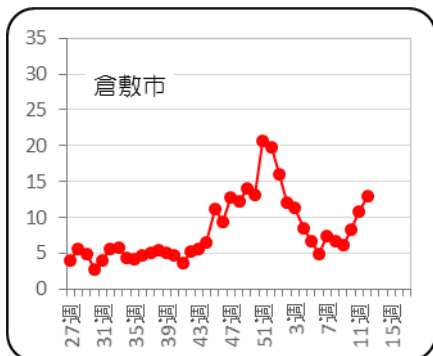
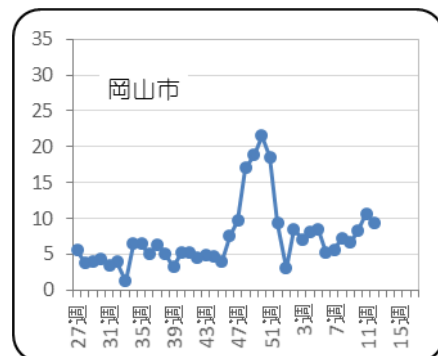
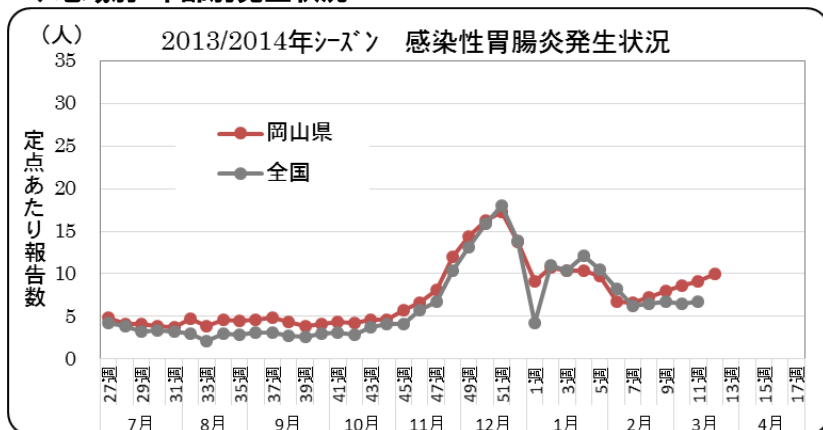
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

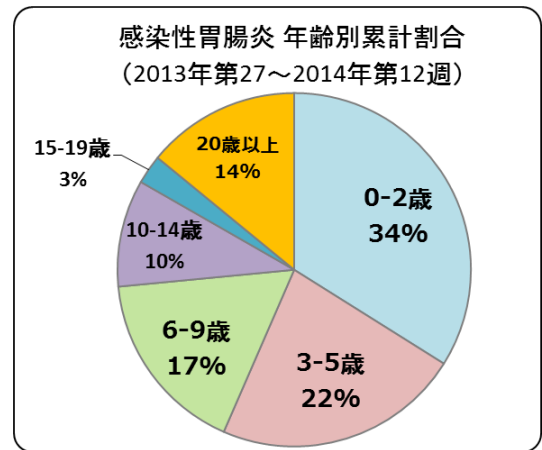
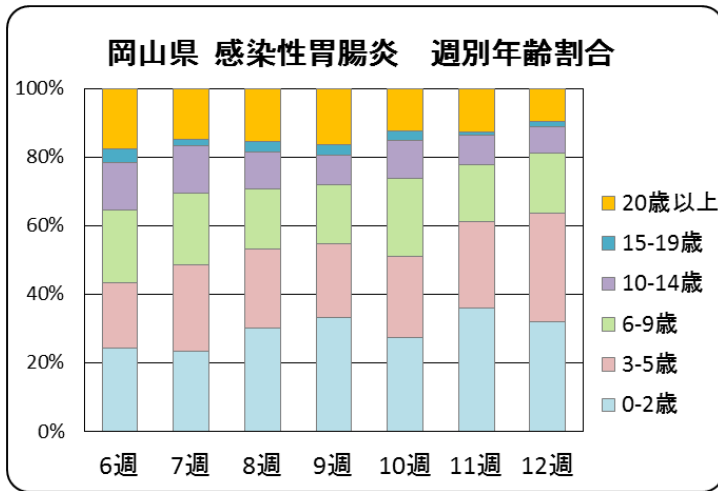
感染性胃腸炎は、県全体で 542 名（定点あたり 9.15 → 10.04 人）の発生がありました。第 8 週以降はわずかに増加が続き、今週は定点あたり 10 人を超えました。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

[○ノロウイルスに関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

[○ロタウイルスに関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、美作地域（13.00人）、倉敷市（12.91人）、備北地域（12.75人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、岡山市と備中地域以外の地域で増加しました。倉敷市では3週連続の増加となっています。週別年齢割合を見ると、第12週は3-5歳の年齢層が大きく増加しました。第6週以降、5歳以下の年齢層の割合が増加傾向となっています。

例年3～5月には、0-2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

